

【今回は『書Ⅱ』教科書 p8と p9の問題です。】

() ()

問題一 甲骨文から小篆までの総称。五書体の中で一番古い書体は何でしょう。漢字で書き、()に読みを書きなさい。

問題二 篆書について教科書を見ながら空欄を埋めなさい。

甲骨文は、の腹甲やに刻された文字です。直線的で線質。殷代から甲骨は主にに用いられた。

金文は、に鑄込まれたり刻されたりした文字です。青銅器は殷・周時代、主にに用いられました。

大篆は、春秋・戦国時代の代表的な文字。群雄割拠のこの時代には、に異なる文字が使われていた。

小篆は、秦のによって制定された公式書体で、字形はで整っている。

問題三 隷書について。教科書を見ながら空欄を埋めなさい。また、カタカナは漢字で書きなさい。

篆書が実用に即してされた書体です。秦代から用いられて漢代にはに定められた。

隷書には秦代に小篆と併用された初期の隷書としてシンレイがある。

素朴な味わいのあるコレイは横画や払いの波打つような収筆(波磔)があまり見られない。

華麗な波磔を持つ隷書は、このハップン様式が広く使われ隷書の特徴となった。

問題四 前漢篆書や隷書の速書きとして生まれた書体は何か。

この書体は、点画の省略や連続、緩急にとんだ柔らかな用筆が特徴である。手紙などに使われ、東晋のにより芸術の域にまで高められた。 オウギシを漢字で書く

問題五 隷書の速書きとして生まれた書体で、草書より読みやすい書体は何。 代表作は『蘭亭序』。

問題六 起筆・送筆・収筆のはっきりした文字。唐代に完成した書体は何。 『九成宮醴泉銘』は、この書体です。

【教科書 p10 と p11 からの問題です。】正しい方に ○ をつけなさい。

問題七 **篆書**の字形（概形）は何？（ア 正方形 イ 縦長の長方形 ウ 横長の長方形）である。

横画は（ア 右上がり イ 筆圧を一定に保つ）。起筆（書き始め）は穂先を内側に包み込むように書き、この用筆を（ア 蔵鋒 イ 露鋒）という。どの画も最後は、（ア しっかりはねる イ 軽く止める ウ しっかり止める）。

問題八 **隸書**の字形は（ア 正方形 イ 縦長の長方形 ウ 横長の長方形）である。横画の書き出しは、篆書と同じで（ア 蔵鋒 イ 露鋒）。

筆の軸は立て、穂先が線の（ア 上 イ 中心 ウ 下）を通るように書くことを（ア 大鋒 イ 中鋒 ウ 小鋒）という。収筆は（線の最後）は、（ア のびやかに払い出す イ 軽く止める ウ しっかり止める）。

隸書の波磔の原則は（ア 一字一波 イ 決まっていない）。

問題九 **草書**の字形は（ア 丸やひし形 イ 長方形 ウ いろんな形）である。

起筆は穂先が画の端に表れるように書く。この用筆を（ア 蔵鋒 イ 露鋒）という。草書の際は前の画から筆脈を意識して書く。横画の途中（送筆）は、筆圧や速度に（ア 変化をつける イ 変化をつけない）。

収筆は（ア 戻るように イ 次の画へ）筆脈を意識する。

問題十 楷書の字形は（ア 正方形に決まっている イ いろんな字形がある）。

起筆は穂先が画の端に表れるように書く。このことを（ア 蔵鋒 イ 露鋒）という。一点一画を（ア 続けて イ 明確に分けて）書く。横画は（ア 曲線的 イ 直線的）。筆圧はあまり変化しない。収筆は（ア 軽く止める イ しっかり止める）。

問題十一 楷書と行書の違いを理解した上で、自分の名前を丁寧に書きなさい。

楷書で書く

行書で書く